

スポーツ広場

大正からの縁 野球交流

秋田県500歳野球連盟の神岡大浦クラブOBチームが、このほど京都を訪れ、京都500歳野球連盟の選抜チームと親善試合を行って交流を深めました。

両連盟交流のきっかけは、1915(大正4)年8月にさかのぼります。大阪の豊中球場で行われた第1回全国中等学校優勝野球大会。決勝は京都二中(京津代表)と秋田中(東北代表)の対戦となり、京都二中が優勝しました。この大会を縁に、両中学OBによる交流試合が行われ、さらには京都、秋田両府県の500歳野球連盟の選抜チームなどの相互訪問につながりました。

2005年に京都500歳野球で優勝した洛陽一陽クラブが秋田へ遠征。今年は秋田の神岡大浦クラブOBチームが京

京都500歳 vs 秋田500歳

都に来ることになり、洛陽一陽クラブを中心とした選抜チームと対戦しました。

試合は京都市北区の京都産業大格野グラウンドで行われました。秋田打線を2点に抑えた京都選抜チームが打ち勝ち、8-2で勝利しました。試合後はナイン同士でがっちり握手を交わし、健闘をたたえ合いました。洛陽一陽クラブの寺本英次主将(61)は「京都産業大野球部のみなさんにグラウンドを丁寧に整備していただき、気持ちよく、いい雰囲気でのゲームができました」と喜びます。夜には市内のホテルで歓迎会もありました。寺本さんは「5年ぶりに再会した人も多く、旧交を温めました。野球を通じて遠隔地の人と交流できる事はありがたいことです」と話します。



試合終了後に握手を交わす京都(左)と秋田の500歳野球連盟のメンバーら